

春の三者総会議案書

2002 年度三者事務局

2002 年 3 月 11 日

目次

1	2001 年度 三者センター校 (大阪大学)	2
2	2001 年度三者準備校 (東北大学)	5
2.1	これがホントの最終決算報告	5
2.2	2001 年秋の学会での決算報告	7
2.3	おもしろかったこと	9
3	WG (掲示板) についての追加報告	9
4	2002 年度三者事務局 (九州大学) からの報告	9
5	2002 年度三者センター校 (京都大学) からの報告及び議案	10
5.1	2002 年度夏の学校の各講師および講師の報告	10
5.2	援助要請の進捗状況に関する報告	10
5.3	オリエンテーションの実施のお願い	12
5.4	修正予算案の承認	12
5.4.1	収入予定	12
5.4.2	支出予定	13
6	2002 年度三者準備校 (名古屋大学) からの報告	16
6.1	活動報告	16
6.2	今後の活動予定	16
6.3	旅費補助額の決定時期について	16

1 2001年度 三者センター校 (大阪大学)

2001年度夏の学校決算報告決定版 (にそろそろしたいなあ)

2002.3.4 版
文責:進藤 哲央

前年度繰越金:2,782,408 円

2001 年度収入

項目	金額
基研援助 (旅費補助)	484,640
基研援助 (ポスター印刷代)	46,200
素粒子論グループ援助	450,000
参加費 (291 人 × 3,000)	873,000
利子	3
合計	1,853,843

2001 年度支出見込み

項目	金額
講師旅費	81,480
ポスター印刷費	46,200
三者事務局	4,990
三者センター校	2,880
三者準備校	287,618
三者名簿校	0
三者 ML・HP 校	0
素粒子パート事務局	0
素粒子パート準備校	17,000
原子核パートセンター校	0
原子核パート準備校	61,745
高エネルギーパート準備校	4,650
合計	506,563

役職校支出内訳

三者センター校（大阪大）

項目	予算	決算
振込手数料	10,000	1120
コピー代	0	1,080
トラベ代	0	680
合計	10,000	2,880

三者準備校（東北大）

項目	予算	決算
下見・契約代	35,000	36,570
郵送料	35,000	37,523
コピー代	50,000	42,000
文具代	10,000	15,005
ホテル前金	100,000	100,000
リース代	0	133,000
印鑑代	0	23,520
手数料等	0	0
計	230,000	387,618

- ホテル前金は一時借入れ金である。このため純粋な支出は 287,618 円となる。

三者事務局（東大）

項目	予算	決算
振込手数料	500	70
切手代	1,000	120
コピー代	3,500	4,800
支出合計	5,000	4,990

三者名簿校（大阪市立大）

項目	予算	決算
合計	0	0

三者 ML・Web 管理校（茨城大）

項目	予算	決算
合計	0	0

原子核パートセンター校

項目	予算	決算
合計	0	0

原子核パート準備校 (京大)

項目	予算	決算
諸費用	10,000	1675
Review talker への謝礼	30,000	30,000
topics 講師への謝礼	30,000	30,000
振込み手数料	0	70
合計	70,000	61,745

素粒子論パート事務局 (名大)

項目	予算	決算
合計	0	0

素粒子パート準備校 (金沢大)

項目	予算	決算
録音関係費 (ビデオテープ、ノート等)	20,000	14100 円
通信関係費 (ビデオ郵送、振込手数料)	5,000	1150 円
研究会費 (ポスターセッションの模造紙等)	15,000	1750 円
合計	40,000	17000 円

高エネルギーパート準備校 (奈良女子大)

項目	予算	決算
コピー代	8,000	2,050
トラベ郵送費	20,000	2,480
振込み手数料	0	120
支出合計	28,000	4,650

参加者への旅費補助総計:1,399,500 円

その他運営費 (詳細は準備校報告を参照)

収入 (ホテル代)	6,922,585
支出 (ホテル代、手数料、雑費)	6,942,770
残高	-20,185

残額

収入	1,853,843
支出	1,926,248
残高	-72,405

繰越金合計:2,710,003 円

2 2001年度三者準備校(東北大学)

文責:柿崎 充(東北大学)

2.1 これがホントの最終決算報告

今年度(2001年度)は、例年とは異なり、夏の学校開催時期が遅かった上に、夏の学校終了後に旅費補助額を決定した。そのため、慣れなかったこともあり、払出手数料の存在を忘れていたりして、最終的な決算が確定したのが、秋の学会終了後になってしまった。それで、もう一度決算報告をする。

2001年秋の学会では最終決算報告と書いておきながら予想値を載せていたわけだが、そのときとの相違点を以下にまとめ、表の中では太字で示す。

- 旅費補助の払出手数料、ホテル代の振込手数料の存在を忘れていた。
- 通帳を見たら、利子が3円ついてた。
- ホテルに支払った額を3,000円書き間違えていた。
- 旅費補助を辞退した人は2人だった。

比較検討のため、2001年秋の学会での決算報告も後ろに載せる。

1. 準備校活動費

収入の部

項目	予算	決算
センター校より	230,000	230,000
利子	0	3
計	230,000	230,003

- ホテルの前金が必要になったため、センター校より100,000円借りた。

支出の部

項目	予算	決算
下見・契約代	35,000	36,570
郵送料	35,000	37,523
コピー代	50,000	42,000
文具代	10,000	15,005
ホテル前金	100,000	100,000
リース代	0	133,000
印鑑代	0	23,520
手数料等	0	0
計	230,000	387,618

- ホテルの前金のために借りた100,000円は、センター校に返した。
- 三者準備校の郵便口座を開設するときにゴム印を使ったら、郵便局員に文句を言われたので、新たに印鑑を作った。また、木島平で夏の学校のゴム印を失くしたので、買い直した。実は、個人の名義で口座を開設してもよいということを知ったのは、印鑑を作ってから知った。ちなみに素粒子論グループはこのようにしているそうである。

収入 - 支出 = 230,003 - 387,618 = - 157,615 円

これは予算からの赤字であり、赤字分は三者センター校に事後申請する。

2. ポスター製作費

収入の部

項目	予算	決算
基研より	100,000	100,000
計	100,000	100,000

支出の部

項目	予算	決算
ポスター製作費	100,000	46,200
基研に返却	0	53,800
計	100,000	100,000

- 余ったお金 53,800 円は基研に返した。

収入 - 支出 = 100,000 - 100,000 = 0 円

3. 夏の学校費用

収入の部

項目	
ホテル代 ^(注1)	6,922,585
参加費	873,000
講師旅費補助余り	403,160
計	8,198,745

(注1) ホテル代には M1 懇親会等の費用も含まれる。

支出の部

項目	
ホテル代 ^(注2)	6,906,190
雑費 ^(注3)	3,400
旅費補助	1,399,500
手数料	33,180
計	8,342,270

手数料にはキャンセルの返金分は含まれない。キャンセル分の手数料は各自に負担してもらった。

(注2) ホテル代には M1 懇親会等の費用も含まれる。

(注3) ホテルでのコピー代。

$$\text{収入} - \text{支出} = 8,198,745 - 8,342,270 = -143,525 \text{ 円}$$

2.2 2001 年秋の学会での決算報告

1. 準備校活動費

収入の部

項目	予算	決算
センター校より	230,000	230,000
計	230,000	230,000

- ホテルの前金が必要になったため、センター校より 100,000 円借りた。

支出の部

項目	予算	決算
下見・契約代	35,000	36,570
郵送料	35,000	37,523
コピー代	50,000	42,000
文具代	10,000	15,005
ホテル前金	100,000	100,000
リース代	0	133,000
印鑑代	0	23,520
手数料等	0	0
計	230,000	387,618

- ホテルの前金のために借りた 100,000 円は、センター校に返した。
- 三者準備校の郵便口座を開設するときにゴム印を使ったら、郵便局員に文句を言われたので、新たに印鑑を作った。また、木島平で夏の学校のゴム印を失くしたので、買い直した。実は、個人の名義で口座を開設してもよいということを知ったのは、印鑑を作ってから知った。ちなみに素粒子論グループはこのようにしているそうである。

$$\text{収入} - \text{支出} = 230,000 - 387,618 = -157,618 \text{ 円}$$

これは予算からの赤字であり、赤字分は三者センター校に事後申請する。

2. ポスター製作費

収入の部

項目	予算	決算
基研より	100,000	100,000
計	100,000	100,000

支出の部

項目	予算	決算
ポスター制作費	100,000	46,200
基研に返却	0	53,800
計	100,000	100,000

- 余ったお金 53,800 円は基研に返した。

$$\text{収入} - \text{支出} = 100,000 - 100,000 = 0 \text{ 円}$$

3. 夏の学校費用

収入の部

項目	
ホテル代 ^(注1)	6,922,585
参加費	873,000
計	7,795,585

(注1) ホテル代には M1 懇親会等の費用も含まれる。

支出の部

項目	
ホテル代 ^(注2)	6,909,190
雑費 ^(注3)	3,400
手数料	0
計	6,912,590

手数料にはキャンセルの返金分は含まれない。キャンセル分の手数料は各自に負担してもらった。

(注2) ホテル代には M1 懇親会等の費用も含まれる。

(注3) ホテルでのコピー代。

$$\text{収入} - \text{支出} = 7,795,585 - 6,912,590 = 882,995 \text{ 円}$$

この余りはほとんどそのまま参加費である。これは夏の学校活動費と学生旅費補助にまわされる。
(後述)

4. 学生旅費補助

素粒子論グループからの援助、基研講師旅費補助余り、夏の学校費用の余りから運営費を引いた額は約 1,356,382 円となっている。一方、旅費補助は総額で 1,403,780 円を予定している。このままでは -47,398 円の赤字だが、旅費補助を受けとらない人もいるので、最終的に今年度の残高がぴったり 0 円になることを期待している。

$$\text{収入} - \text{支出} = 1,356,382 - 1,403,780 = -47,398 \text{ 円}$$

2.3 おもしろかったこと

- 知り合いが 100 人以上できた。
- Perl, CGI, HTML, Sendmail を会得した。(まだ不完全だが)
- スタッフにも顔と名前を覚えてもらえた。
- 事務の仕組みを垣間見た。

3 WG (掲示板) についての追加報告

文責：馬場秀司 (京大)

前回の夏の学校でセンター校名で提出され、承認された掲示板設置についての追加報告を行う。この議題に関しては、承認後センター校の手を離れ WG 関係者に任せるものであったが以下の理由により未だ設置されておらず代替案としてセンター校に予算申請を行った。

- 夏の学校の総会における議論では、「掲示板は基研の計算機上に設置」との事であったがセキュリティと技術的問題との両面からこの方針は困難であることが判明した。
- また、元々用意していた無償掲示板の使用についてはセキュリティ上の問題から、夏の総会で撤回している。
- 上記の報告および以下の代替案を秋の学会における総会で提出できず年度を跨いだ事を謝罪する。
- 第 3 の代替案として、民間のパスワード認証型掲示板を使用することを提案し、これに掛かる費用 6 千 4 百円を追加予算として WG 名義でセンター校に申請した。
- 掲示板は、今総会で承認され次第アドレスを公開する。

掲示板使用の方針

過去の例から見て、三者若手の議論は夏の学校直前およびその後に集中している。このため、夏の学校後に YONUPA-ML を用いたアナウンスを強化して議論の充実を図る。

「セクハラ WG」「廃止論」等、ML 上で議論されてきた議題についても掲示板の上にスレッドを設け、三者若手内部の議論を高めるために活用していただきたい。

4 2002 年度三者事務局 (九州大学) からの報告

文責：大庭 弘 (九州大学)

2003 年度の三者準備校の確認について報告する。

北海道大学と東京都立大学が、2003 年度の三者準備校を担当することになっていた。しかし、前回の秋の三者総会において、共同で準備校の仕事を行うのは大変ではないかという問題提起があった。

事務局は両校に連絡を取り、共同して準備校の仕事に当たる意志がある事を確認した。また、各大学の代表者も決まった。今後、両校は連絡を密に取り合い、仕事の分担や連絡方法を定めるそうである。

事務局としては、以後の話し合いは両校に任せる。

5 2002年度三者センター校(京都大学)からの報告及び議案

文責: 東 武大(京都大学・素粒子論・D1)

5.1 2002年度夏の学校の各講師および講師の報告

2002年度夏の学校については、各パートごとの講師、および「夏の学校特別講演」の講師が以下のとおりに決定した(講師名敬称略)。

1. 素粒子論パート:
 - 「超弦理論と量子重力」 磯 暁 (KEK)
 - 「いろいろな次元における非線型シグマ模型
– 場の理論入門として」 稲見 武夫 (中央大)
 - 「超対称性と階層性」 中野 博章 (新潟大)
2. 原子核パート:
 - 「クォーク・ハドロン物理における
カイラル対称性」 保坂 淳 (RCNP)
 - 「原子核の平均場と殻模型 – 現状と展望」 中田 仁 (千葉大学)
 - 「中性子過剰エキゾチック核の構造」 中村 隆司 (東京工業大)
3. 高エネルギーパート:
 - 「謎の粒子ニュートリノと物理」 原 俊雄 (神戸大)
 - 「LEP から LHC そして JLC へエネルギー
フロンティア – 実験の夢と現実」 山下 了 (ICEPP)
4. 夏の学校特別講演:
 - 「標準模型以前の素粒子物理」 小林 誠 (KEK)

- 原子核パートの topics 講師、及び review talker については、現段階では決定をしていない。
- 今年度は、三者センター校の担当である講義については「夏の学校特別講演」と名称を変更して行なうこととする。

5.2 援助要請の進捗状況に関する報告

2001年度夏の学校における三者総会において、2002年度三者センター校である京都大学は繰越金問題に関する議案を提出した。そこで承認された事柄を基に、三者センター校は以下に述べる方針で対外的に交渉を行なった。以下は各団体に対する交渉の報告である。

素粒子論グループ

秋の学会において、三者センター校は、繰越金問題の関連上、以下の事柄について報告を行なった。

- 前年度繰越金の金額及び繰越金の累積の経緯の報告、及びこれまでの援助申請で前年度繰越金を報告しなかったことに対する謝罪
- 2002年度は援助を辞退するが、将来的に援助を再開して頂けることをお願い
- 2001年度夏の学校におけるセクハラ対策 WG の報告

繰越金の問題に関しては、将来的に援助を再開することについては理解が得られた。今後の運営においても繰越金が累積することなく、有効に他団体より頂いた補助を参加者に還元する体制をしっかりと築くことが望まれる。

----- [sg-1 1298]¹ 事務局報 [(2) 素粒子論懇談会報告] より引用 -----

- 予算補助に関して:

繰越金問題を深刻にとらえ、2002 年は素粒子論グループにたいする補助申請を辞退する。繰越金が 100-150 万円に定常化すると予想される 2004 年ごろから補助の申請を再開したい。そのためによりよい運営の形態を目指す。

(懇談会での意見) 繰越金が正常化するまで援助申請を自粛するのはよいが、今後のため援助額の算定基準をきちんとすることが大事である。もし援助額の算定基準しっかりすれば学生の負担の大きさによっては援助が将来増額されることもありうる。

- セクハラ問題:

意識の徹底と相談窓口などいくつかの対策をとり有効に機能した。来年度以降も同じように続けていきたい。

----- 引用終了 -----

基礎物理学研究所

2002 年 1 月 24 日に、京大基礎物理学研究所で行なわれた、基研研究部員会議の報告を行なう。三者センター校は、基研に対して今年度は

- ポスター印刷費 10 万円

として申請した。それとともに、繰越金問題の報告、将来的に従来どおり²の援助を再開することのお願いを行なった。今年度申請した印刷費の金額については研究部員会議で可決された。

研究部員会議においては、以下のコメントが寄せられている。

- 異なる大学が役職校を担当している三者若手の体制では、連絡の不備によって基研の事務手続きにおいて支障を来たして迷惑をかけることがないように、各役職校間の連携をしっかりとってほしい。
- 事務処理上、対外的に迷惑の及ぶことのないよう、次年度への引き継ぎはしっかりと行なってほしい。

素粒子論グループ、基研研究部員会議いずれにおいても、若手内部の考える繰越金適正金額は 100 万円～150 万円であるという意志決定に関しては異論が出されることはなかった。

KEK 及び RCNP

将来的な夏の学校の安定した運営を目指して、上記二団体の他、KEK 及び RCNP に対して、援助要請を行なった。但し、KEK 及び RCNP については援助要請の文書を提出しているがプレゼンテーションは行っていない。

- KEK については、KEK 所属の講師が旅費を自分で工面するという形で決定している。
- RCNP については、講師旅費 20 万円を申請した。これについては現在交渉中である。

¹sg-1 とは素粒子論グループのメーリングリストのことである。

²例年は講師旅費 50 万円、ポスター印刷費 10 万円として可決

5.3 オリエンテーションの実施のお願い

各研究室で、新年度に新入生に対するオリエンテーションを行なって頂きたい。主には、夏の学校、及び若手活動全般そのもの、Yonupa-ml についての紹介をして頂きたい。また、各自の研究室で作成されたオリエンテーションの資料で、他大学にとって有用と思われるものがあれば、[Yonupa-ml] 上での紹介をお願いしたい。

5.4 修正予算案の承認

2002 年度夏の学校の運営に関する予算については、2001 年度秋の学会における三者総会において可決されている。その後、以下の役職校及び WG より修正予算が申請された。2002 年度三者センター校は、以下の修正予算案について承認を求める。具体的には、修正予算の申請を行なったのは以下の団体である。

- 三者準備校: 払出し手数料 30,000 円の追加。
- 素粒子パート準備校: ビデオカメラレンタル料 24,000 円の追加。
- WG: 掲示板レンタル料 6,400 円の追加。

本議案書では、秋の学会の段階と変更した項目は、太字で [] で囲んで表記するものとする。なお、本議案書では比較のために掲載した 2001 年度の会計については、同時に提出された「2002 年春の学会の議案書」掲載文を引用するものとする。

5.4.1 収入予定

これについては、秋の学会の段階とは変更がないが、前述したように RCNP に対する援助要請は現在のところ未定である。

	今年度収入予定	前年度決算
前年度繰越金	2,710,003	2,782,408
基研 (旅費)	0	484,640
基研 (印刷費)	100,000	46,200
素 G	0	450,000
参加費	900,000	873,000
利子	—	3
合計	3,710,003	4,636,251

5.4.2 支出予定

	今年度予算案	前年度決算
三者役職校	241,500	295,488
パート *2	62,000	83,395
講師旅費 *1*2*3	700,000	81,480
ポスター印刷費	100,000	46,200
WG	6,400	0
学生旅費補助 *3	890,100	1,399,500
その他運営費	—	*4 20,185
次年度繰越金	1,710,003	2,710,003
合計	3,710,003	4,636,251

1. 今年度の運営においては、三者若手の予算より講師の方々に対して旅費・宿泊費等を支払う際には、従来どおり基礎物理学研究所の算定基準を準用して支払いを行なうものとする。
2. 従来は原子核パートの Review Talker 及び Topics 講師に対する補助は、原子核パートの予算として申請していたが、今年度は講師旅費として処理することにする。これらの費用もまた、1. と同様に基礎研の算定基準に基づいて支払う。
3. 講師旅費については、科研費・所属研究所など、夏の学校以外の財源から旅費が捻出される場合には、その分の金額は「学生旅費補助」として使うこととする。
4. 具体的には、2001 年度三者準備校管轄分の、ホテル代等の差額である。詳細は 2001 年度三者準備校報告を参照。なお、2001 年の決算報告では、「払出し手数料」はこの範疇に含める。

三者役職校の予算案

	今年度申請額	前年度決算
三者センター校	3,500	2,880
三者準備校	233,000	*1 287,618
三者事務局	5,000	4,990
三者名簿校	0	0
三者 ML・HP 校	0	0
三者予算合計	241,500	295,488

1. 2001 年度予算および決算の項目には、三者準備校の予算にポスター代は含まれていない。

● 三者センター校:

申請項目	今年度申請額	前年度申請額	前年度決算
振込手数料	1,000	10,000	1,120
録音関係費	500	0	0
文具代	1,000	0	0
コピー代	0	0	1,080
トラペ代	0	0	680
郵送費	1,000	0	0
合計	3,500	10,000	2,880

● 三者準備校:

申請項目	今年度申請額	前年度申請額	前年度決算
下見・契約代	20,000	35,000	36,570
郵送料	35,000	35,000	37,523
コピー代	60,000	50,000	42,000
文具代	10,000	10,000	15,005
リース代	78,000	0	133,000
[払出し手数料]*1	30,000	—	—
印鑑代	0	0	23,520
手数料	0	0	0
ホテル前金	—	*2100,000	*2100,000
合計	233,000	230,000	387,618

1. 2001 年度決算では、「払出し手数料」は、「その他運営費」の範疇に含めて記述。
2. ホテル前金は一時借入金である。このため純粋な支出は、287,618 円となる。

● 三者事務局:

申請項目	今年度申請額	前年度申請額	前年度決算
コピー代	4,000	3,500	4,800
切手代	500	1,000	120
振込手数料	500	500	70
合計	5,000	5,000	4,990

● 三者名簿校: 予算申請なし

申請項目	今年度申請額	前年度申請額	前年度決算
合計	0	0	0

● 三者 ML・HP 校: 予算申請なし

申請項目	今年度申請額	前年度申請額	前年度決算
合計	0	0	0

各パートの予算

	今年度申請額	前年度決算
素粒子パート	44,000	17,000
原子核パート	*18,000	61,745
高エネルギーパート	10,000	4,650
パート予算合計	62,000	83,395

1. 原子核パートの Review Talker 及び Topics 講師に対する補助については、「支出予定」のコメント参照

● 素粒子パート事務局:

申請項目	今年度申請額	前年度申請額	前年度決算
通信費及び印刷費	1,000	0	0
合計	1,000	0	0

● 素粒子パート準備校:

申請項目	今年度申請額	前年度申請額	前年度決算
録音関係費 *1	10,000	20,000	14,100
通信関係費 *2	2,000	5,000	1,150
[ビデオカメラレンタル料]	24,000	0	0
消耗品代	2,000	0	0
研究会費	5,000	15,000	1,750
合計	43,000	40,000	17,000

1. ビデオテープ、カセットテープ、カメラ用テープ代等
2. テープの送料等

● 原子核パートセンター校: 予算申請なし

申請項目	今年度申請額	前年度申請額	前年度決算
合計	0	0	0

● 原子核パート準備校:

申請項目	今年度申請額	前年度申請額	前年度決算
Review Talker への謝金	—	30,000	30,000
Topics 講師への謝金	—	30,000	30,000
諸経費	0	10,000	1,675
文具代	3,000	0	0
コピー代	5,000	0	0
振込手数料	0	0	70
合計	8,000	70,000	61,745

● 高エネルギーパート準備校:

申請項目	今年度申請額	前年度申請額	前年度決算
トラペ郵送費	10,000	20,000	2,480
コピー代	0	8,000	2,050
振込手数料	0	0	120
合計	10,000	28,000	4,650

WG の予算

WG:

申請項目	今年度申請額	前年度申請額	前年度決算
[掲示板レンタル料]	6,400	—	—
合計	6,400	—	—

最後に、領収書の提出のお願い

2002 年度夏の学校の会計では、各役職校・WG に領収書の提出をお願いすることとしている。領収書はしっかりと保存しておくように、注意して頂きたい。

6 2002年度三者準備校(名古屋大学)からの報告

文責：倉知 昌史(名古屋大学)

6.1 活動報告

1. 2002年度夏の学校について

- 日程
2002年8月1日(木) - 8月7日(水)
- 場所
パノラマランド木島平(長野県下高井郡木島平村上木島 3878-2)
2001年度夏の学校と同じ。
- 料金
1泊 + 3食(セット) : 5,250円
但し食事及び宿泊は全て分割可能で、その場合は以下の料金となる。
宿泊(単価) : 3,150円
朝食(単価) : 840円
昼食(単価) : 630円
夕食(単価) : 1,575円 (料金はすべて税込み)

2. ホテルとの仮契約

- 上に示した内容でホテル側と仮契約を結んだ。宿泊、及び食事の料金は2001年度と同額である。
また、黒板、OHP等の備品についても昨年同様レンタルが可能であることを確認した。

3. 日本物理学会協賛

- 昨年度に引き続き、日本物理学会に三者若手夏の学校への協賛を申請中である。

6.2 今後の活動予定

1. ホテルとの本契約

- 特に問題がなければ4月中にホテル側と本契約を結ぶ予定である。

2. ポスター、パンフレットの送付

- 5月頃、ポスター、及びパンフレットを各研究室に送付する予定である。なお、昨年と同様に郵送費節減のため、同一住所の研究室にはまとめて郵送するので、各研究室で振り分けて頂きたい。

6.3 旅費補助額の決定時期について

- 2002年度夏の学校参加者に対する旅費の補助については、2001年度と同様、夏の学校終了後にその金額を決定する。